

業種別景況予測

平成28年7月～9月

						
	特に好調	好調	まあまあ	やや不振	不振	きわめて不振
部会	4～6月 (実績)	7～9月 (見通し)	概況			
寝装 リビング			個人消費については一部、改善はみられるものの、動きは鈍くなっている(日銀さくらレポート)。当地域においては生産状況、売上状況ともに悪化、それに伴い、在庫も微増している。「昨年度暖冬のため、製品在庫が残り、発注が少ない」とのコメントが寄せられた。			
繊維 ファッション			「とても厳しい。今まで以上に商品開発とマーケット開拓に力を入れていく」「消費マインドが悪すぎる。昨年までよかった小売店(ブティック)も今年に入り、よくないとのこと。打つ手なし」「7月以降、不景気になる気配。受注が止まっている」とのコメントが寄せられた。			
工業			「物流の量は昨年より減少している」というコメントの一方で「7～9月期は4～6月期より少し良くなっている」「出荷量増加のため原材料不足」とのコメントが寄せられた。			
建設			近畿圏内の公共投資は下げ止まりつつあるようだが、設備投資は増加基調、住宅投資は持ち直している様子(日銀さくらレポート)。また、「改築工事が増えている」「仕事(特に設備関連)が減少し、小物件が増えつつある」とのコメントが寄せられた。			
運輸倉庫			「輸送量減、人材難が今後の課題」「夏物商品中心に出荷状況が悪い。景気の悪化が感じられる。この先の動向を注意したい」「支払金利の減少、燃料油価格調整金の下落に伴う運賃単価の下落、燃料費の減少により収益は不変」とのコメントが寄せられた。			
金融理財			「支払保険料が安くなるためインターネット契約が増えているが、事故が起きた時の対応が心配(損保代理店)」「投資性商品の販売が伸びている。貯蓄から投資に目が少し移ったように感じるが、企業の給与体制が思ったより好転していないため、保険業界全体では保障商品への売行きに影響が出ているように思う(保険業)」とのコメントが寄せられた。			
一般商業			「市場規模は徐々に縮小しているように思う(和菓子製造業)」「業界のギフト使用量が減少(ギフト卸業)」「バーゲン商戦も第一段が終わり、今からだらだらと長い夏物商戦が続きそう(小売業)」とのコメントが寄せられた。			
サービス業			「暑い日はお客さんも多く、冷たいドリンクの注文が増える(喫茶店)」「経営改善を色々試みて、様子を見ている状態。好転できるよう、社員一丸となって頑張っている(介護業)」「強い経営体質が急務。抜本的に変える必要もある(美容業)」とのコメントが寄せられた。			
付帯調査	マイナス金利の影響について		影響がないという回答が多くを占めた。一部の企業では「金融機関から融資の申出があった」「金融機関の飛込みによる営業が増加」「金利が下がった」とのコメントが寄せられた。			

(調査概要) ●調査実施 平成28年7月 ●調査対象企業 259社 ●回答数131社

管内企業をとりまく諸条件を考慮し、各企業が「景況」をどのように予測しているのかについて、継続的に調査し発表しています。調査は、四半期毎にとらえており、通常のシーズンの動向が理解できるようにまとめました。この「景況予測」が「結果」と比べてどうであったか、また、各々の業界対策・企業経営の一つとして、参考にしていただければ幸いです。

～調査機関～ 泉大津市田中町10番7号 泉大津商工会議所 中小企業相談所 TEL 0725-23-1111

